

交通事故ゼロを目指す 技術者たちの飽くなき挑戦

日本の自動車安全に対する概念を変えたと言つても過言でない、

株式会社SUBARUの先進運転支援システム、アイサイト。

「ぶつからないクルマ?」というキャッチフレーズで、

一躍脚光を浴びた、同システムの開発に携わる、

技術者たちの思いを取り材した。

**車業界の常識を変えた
世界初の運転支援システム**

衝突被害軽減ブレーキや、車線逸脱抑制など、交通事故の抑止と先進運転支援システム。今、世界中の自動車メーカーが安全技術向上を目指し、しのぎを削っている。なかでも、先駆者として知られているのが、太田市に技術本部を持つ株式会社SUBARUだ。同技術の開発が始まったのは、約30年前の1989年。東京都三鷹市にある同社の研究所で、わずか数人の技術者が、ステレオカメラを使った安全システムの開発



アイサイト・バージョン3のステレオカメラ。「ぶつからない技術」のプリクラッシュブレーキ、「ひいていく技術」の全車速追従機能付クルーズコントロール、「飛びださない技術」のAT誤発進抑制制御を搭載している

術や、渋滞時から時速100キロメートルで対応可能な先行車両の追従機能、世界初のAT誤発進抑制制御を盛り込んだ。価格を大幅に圧縮した初代アイサイトは、多くのユーザーに受け入れられたものの、開発チームには、成し遂げていない目標があった。完全停止させ、衝突の回避支援を行う、プリクラッシュブレーキ機能の確立である。

長年培つた技術を結集し進化を続けるアイサイト

2010年、同機能の実用化に成功した同社は、「ぶつからない」というキャッチフレーズを確立する。同年、同機能の実用化に成功した同社は、「ぶつからない」というキャッチフレーズを確立する。



アイサイトの開発に携わる技術者の皆さん



谷田貝拓朗さん



福間健太さん



高橋和志さん



関口弘幸さん

技術者たちは、常に技術を磨き、進化を続ける。アイサイトの開発には、多くの技術者が貢献している。彼らは、車の運転環境データを収集・解析するため、技術者たちが走った距離は、30年間でのべ320万キロメートルを超える。最高気温50度を越えるアメリカ・デスバレーカラ、マイナス30度以下の極寒地域まで、世界中のデータを集めただけだ。

「例えば私の担当する、カメラで物を見つけるという技術は、さまざまな条件での検証が必要です。教えてくれたのは、入社21年目の関口弘幸さん。車の速度、天候、昼夜の条件が変わっても、力

に着手した。当時はまだ、世界中の自動車メーカーが、事故を回避する技術に対し、重点をおいていない時代。しばらくは社内でも、なかなか認知されない日々が続いた。こうして状況のなかでも、技術者たちはくじけず、ステレオカメラを搭載した車で国内外を走り、あらゆる気象状況における走行データを収集。先行車両と適切な車間距離を保ち、自動的に加減速する運転支援装置の技術構築に励んだ。

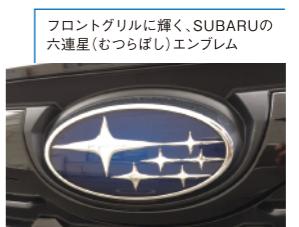
その後、同技術の開発拠点は、

太田市の技術本部に移行。開発が始まってから10年後の1999年、同社は世界で初めてステレオ

カメラを使って車間警告や車線逸脱警告を行なう、ADA(アクティブ・ドライビング・アシスト)の実用化に成功した。ところが、期待とは裏腹に、世間の反応は芳しくなかった。高額な価格設定が、大きな壁となつたのだ。

再び奮起した技術者たちは、さらなる品質向上や、価格を下げ

るための研究にまい進。2008年、ステレオカメラのみで歩行者や自転車も認識する先進運転支援システム、アイサイトを発売した。同システムには、衝突の危険性がある場合に自動でブレーキをかけ、事故の被害を軽減する技



フロントグリルに輝く、SUBARUの六連星(むつらぼし)エンブレム



アイサイトの試作品を確認する福間さんと谷田貝さん。技術者同士の情報交換も欠かせない



株式会社SUBARU
スバル
ビジターセンター

太田市庄屋町1-1
☎0276-48-3101
(月~金 8:30~17:00受付)
※見学の予約受付は
2ヶ月~20日前まで